

研究課題名	頭蓋内動脈狭窄症に対する経皮的脳血管形成術の長期成績
実施責任者	所属・職名： 脳神経外科 部長
	氏名： 鈴木 宰
研究の概要	<p>2011年に発表された頭蓋内動脈狭窄症に対する治療について発表された有名な SAMMPRIS studyにおいて内科的治療のほうが有害事象は少なく、カテーテル治療はあまり有効ではないとされました。この論文以降、頭蓋内動脈狭窄症に対しては、バルーンやステントなどを用いて経皮的血管形成術を行うよりも、内科的治療・保存的治療を選択することが多くなりました。しかしながら脳血管内治療についても日進月歩で技術や道具・質の向上があり、近年の論文（weave trial）ではカテーテル治療の良好な治療成績について報告されています。また昨今、脳梗塞急性期治療に対する機械的血栓回収術も全盛期となっている現状においても尚、予想外に遭遇してしまう頭蓋内動脈狭窄症もしばしば頭を悩ませることがあります。そのため我々は治療を、多くの場面で悩みながら治療を行っています。その外科的治療1年後までの経過を報告した論文は多いものの、2-3年以上の長期経過や脳卒中予防効果などについては報告が少ないのが現状です。今回の研究を通して、その自然歴や経過・予防効果について解析したいと考えております。研究方法は各医療機関での電子カルテより後方視的に情報収集し、そのデータを解析致します。研究期間は研究承認後より2021年12月31日までを予定しております。</p>
対象となる個人情報	カルテ番号、生年月日、イニシャル、患者背景（年齢・性別・既往歴・併存疾患・喫煙・入退院時 modified Rankin Scale）、脳卒中の詳細、併存疾患、治療部位・治療手技、神経学的予後、術後合併症、その後の脳卒中の有無
実施の期間	西暦 2005 年 1 月 1 日より
	西暦 2017 年 12 月 31 日まで
研究対象	上記期間に頭蓋内動脈狭窄症に対して経皮的脳血管形成術を当院で受けられた方